

## 毎日歌壇

## 米川千嘉子 選

廊下にも緩和病棟花あふれ生き抜きて今、死は味方なり 姫路市 おのえ双葉

△評▽健やかだった頃も、厳しい闘病の歲月も、まさに「生き抜」いてきた。その上で出てきた重い結句に肅然とする。

駅うらのおでんやに娘と椅子ならべ夜学教師の妻を待ちたり 鹿嶋市 加津牟根夫

△評▽屋台だろうか。湯気や匂いの中に、妻が現れたときの声や笑顔も浮かぶ。

無意識にまだ母の手を握る子の背を見つめお見えなくなるまで 横浜市 友常 甘酢

男性のナースベッドに声をかく駆けぬわれらにテノールの声 和歌山 和田 千明

明治よりつづいた実家守れず無念なりけり「家いちば」に載せ 尼崎市 小石 絹子

仏壇の蠟燭にマッチで火を点すのが楽しみで来る小二の孫は 鹿嶋市 大熊佳世子

AIの栄養士われを責め立てず小さき努力を褒めてくれたり 東京 富見井高志

特養に勤務する子は元日出勤するとして紅白を見ず 千葉市 田中 文雄

高齢の姉妹の我ら自転車で家の中間マクドで逢へり 大阪市 岡田マチ子

風のあと音を沈めて降る雪に朝の一步を決めて灯を消す 金沢市 干場 哲生

## 加藤 治郎 選

陽光にとけてほろんでみたかった雪が夜道をこんなにも照らす 大津市 世田 夏雪

△評▽上句は雪の思いを想像したのだろう。ほろぶことを希求している。下句ではそんな雪が夜道を照らす。至福感がある。

戦争が起きたらしくて誰ひとり同窓会に来ない夕暮れ 東京 嶋村 純

△評▽戦争が起きたらどうするのか。自宅で息をひそめている様子を思っただけ。

雪の朝まだ足跡も何もないラーメンショップ駐車場あり 仙台市 梅津シゲル

コンソメの粉末スープを溶きながら窓叩くスナフキンだよ 川崎市 新井 将

ぬかるんだ道を選んで差し出した手はやわらかなひかりをつかむ 兵庫 廣澤 真希

この街で自動車なしに暮らしてる夫は自転車吾は車椅子 沼津市 麻場 育子

できるだけ遠くに飛んでゆけばいい痛みも傷も過去も綿毛も 四万十市 佐竹 紫円

後悔を落としてしまふ深い宙 雲雀のように鋭く生きて 平塚市 芝澤 樹

今すぐに自由な風にならなくて両手ひろげて面目を閉じた 大阪市 吉田 昌之

わたしが死なないうちに猫がいて毎日猫にご飯をあげる 新座市 睦月くらげ

## 水原 紫苑 選

たましいの重さといえはそんな気もする一円を川へ放った 東京 境 千尋

△評▽たましいはきつととても軽いのだろう。投げられて、静かに川の底に沈んでゆくあなた、そして私。

分裂の何回目から細胞は生まれる怖さ自覚するの 福津市 原田 冬

△評▽分裂のどこからが私なのか。永遠に分裂しない私もあるような気がする。

書きそびれ続けてしまふ手紙と奇跡と呼んでほしい雪夜だ 千葉市 星野 珠青

ふいに知る君の冷たさ首筋にもぐりこみたる雪のひとひら 甲府市 村田 一広

この町の信鳥機みなジェルソミーナ ヘレン・ケラーに優しくはない 東久留米市 中里 正樹

純白のスケート靴に削られて銀の泪はさりと舞う 大阪 中村 杏

ジッパーの軌道ではしる流れ星とじても夜はこぼれやまない 東京 石川 真琴

カーソルの先に港の明かりある真白き思考飼ひ慣らすなり 東京 吉岡 耕大

背後から覗き込まれるデッサンはまるで素肌を晒すみたいで 高島市 くらたか湖春

真夜中にわたしは発光するといふくらげのやうなところの辺り 名古屋市 浅井 克宏

## 伊藤 一彦 選

青春と民主主義とは相似たり面倒くささと気持の熱さと 筑紫野市 桂 仁徳

△評▽一見かけ離れているように見える青春と民主主義が似ているという思い切った考え。下の句になるほど納得共感する。

優・秀をみながよくとは限らない酸っぱいみかんが好かれたりして 静岡市 柴田 和彦

△評▽甘さたっぷり「優・秀」を求める者はかりでないという人間の面白さだ。

ここにいますけどいいのというように見つめる果物売り場のいちご 宮崎 門田 藍子

感情に上手に蓋ができた日は深夜にビッグマックを食べる 三条市 甘 辛

擦るほどに艶は剥がれてテーブルを拭くように母はわたしを愛した 平塚市 小松百合華

隣にはぶくぶくほっぺぐっすり深夜の時見てごめんねと言う 水戸市 井田 里紗

ひとつつつ手から放てはわが身体透明になり心の見ゆる 伊丹市 岡本 信子

「人間の可能性は無限である」と考える人を左翼と呼べり 登別市 松本 秀

訪れたことない住所数十回目にしたためて貰状じまい 座間市 高橋 貴子

震災に倒れしままの碑は土に顔つき起こさるる日を待てり 瑞穂市 渡部 芳郎

## 投稿規定

はがき1枚に選者を指定し、未発表の自作を2首・2句まで。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、宛先は〒100-8051(住所不要)毎日新聞学芸部、短歌は「毎日歌壇」、俳句は「毎日俳壇」、〇〇先生(希望選者名)係へ。毎日新聞デジタルの投稿フォーム

(<https://mainichi.jp/kadan-haidan/>)

でも受け付けています。

他媒体との二重投稿や同一作品を複数の選者に投稿するのは厳禁。投稿は趣旨を変えずに添削することがあります。入選作は毎日新聞社の電子メディアやデータベース、アプリ「俳句でふてふ」で公開します。



こちらから投稿できます

次回8日に掲載します。